

令和元年度第1回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和元年7月22日（月） 午後4時00分～午後5時05分

場 所 恵那市役所西庁舎4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

（1）いじめの現状について

（2）奨学金制度について

（3）えないっぱい給食について

出席構成員：恵那市長

小坂喬峰

（6名） 教育長

大畑雅幸

教育委員

村松訓子

鎌田基予子

樋田千史

西尾修欣

事務局： 副教育長

安藤一博

教育委員会事務局長

加藤真治

教育総務課長

西尾克子

恵那市学校給食センター所長

成瀬浩司

教育総務課係長（記録） 古屋恵子

開会（午後4時00分）

■事務局（西尾教育総務課長） 令和元年度第1回恵那市総合教育会議を開催します。
設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録も公表します。

1. 市長、教育長あいさつ

■市長 本日は令和元年度第1回の総合教育会議です。2つの記事を配布しました。1つはプログラミングの必修化という記事です。プログラミング教育が叫ばれている中、論理的な思考以前に、プログラミング的な技術や技法が分からないと、これからの世の中、生きていくことは大変ではないかというものです。もう1つは、ソフトバンクの孫社長のネット記事です。AI分野で日本はここ数年で発展途上国となった。AI分野だけではなく、日本そのものが高齢化、老衰化しており、考えることをやめつつあり、意欲、物欲がなくなってきました。少子高齢化が進み、人口が減り、若者がいなくなっているが、どうしたらよいのか。今日、オーストラリアへ研修に行く高校生二人の訪問がありました。彼らが1年間オーストラリアに留学し、見たり聞いたり学んだりして帰国した際、日本はなんて年老いた国だと感じることでしょう。世界が速いスピードで動いている中、日本にいて昨日と同じ、もしくは昨年と同じ事しか行っていないということに疑問を持つ必要があります。引っ張る側はもっと引っ張っていく必要があると改めて感じています。

この総合教育会議は教育全般に関わることですが、恵那市政全般にも関わることで、色々な意見が聞けると思っています。よろしくお願いします。

■教育長 定例会に引き続いての会議、お疲れ様です。この土日に文化センターでこどもフェスタを開催しました。本年度はソフトバンクがペッパー君2台でプログラミングの実習を行い大変好評でした。かつて私たちが子どもだった時代は、記憶力と作業の正確さ、早さが大事にされるジグソーパズル的な学習が主流だったのに比べ、今後はもっと創造的に色々な情報を得るレゴ型学習が大事だと言われています。できる限り学校教育にも取り入れていく必要があります。

この総合教育会議が始まったきっかけは、いじめ問題です。岐阜市の事件を受けて、今回いじめについて議題に入れていますので、意見をよろしくお願いします。

2. 議題（以後市長の進行による）

2-（1）いじめの現状について

■市長 それでは、いじめの現状について説明をお願いします。

■副教育長 資料に基づき恵那市におけるいじめの現状を説明。いじめの認知件数が全体に増えているのは、平成29年度から、どんな小さな事でもいじめとして認知するようになったためであること。いじめの現在の状況については、28年度以降調査項目が変わったことについて説明。認知件数が増えていることが問題ではなく、初期対応が肝心であること。解消に向けて取組中が増えているのは、それぞれの事情、家庭間のトラブル

ル、子どもの話が徐々に変化していくことが原因であることを説明。

■市長 質問などがありますか。

■樋田委員 以前は、各学校でアンケートを採り、いじめがあったらすぐに対応し、教育委員会に報告していたが、現在でもアンケートはありますか。

■副教育長 学校によるが、学期に1回という形が多く、頻度の高い学校もあります。

■樋田委員 アンケートを採るだけではなく、継続していくことが大切。ただ恵那市は小規模校が多く、担任持ちが多い。そんな中で、授業も行い、子どもの様子、ちょっとした変化にも気づき、校長や教頭に報告しなくてはいけない。報告を受けたら、校長は、担任1人に任せるのでは無く、各教室に様子を見に行くなど対応する必要がある。また学校には支援員もいるので、校長は支援員とも情報を共有して子どもを見守らなくてはならない。校長会でも話をされたと思うが、ちょっとしたいじめも絶対見逃さないといった校長、教頭の意識、先生方の意識を持つよう、教育委員会としても指導することが大事だと思います。

■副教育長 若い先生が多く、まずどう対応すれば良いか困ってしまうところもある。樋田委員が言われたように、学校の規模が小さくなってきており、以前のように、学年主任と相談し、学年全体で対応する体制すらできない状況となっている。現在、各学校では教頭もしくは教育相談担当、生活指導がすぐに動き、ケース会議という形で、今後の方針や対策を話し合うことが多くなってきている。

■樋田委員 心の相談員は、各学校に1人は配置されているか。

■副教育長 はい。

■教育長 配布したマニュアルは、平成23年に岐阜県教育委員会が作成したものに、県の許可を得て、恵那市独自でそれまでの研修の資料を合わせて作成したものです。常勤講師を含む全教員に配布し、何かあった際にはこのマニュアルを参考に対応する。またマニュアルに基づいて研修をするように各学校に依頼しております。教員はキャリアが物を言うところもあり、経験を積むとちょっとした変化にも気づくのですが、若い先生はなかなか気づけない部分もあります。どういったところに目を付ければいいのか、どういった言動に気をつけないといけないのかから教えていく必要があると思います。

■村松委員 自殺をすることがいじめの解決にはならないということを、生徒に伝えなくてはいけないと思います。命を落としてしまうことは最悪の結果で、解決にはなりません。時代が変わっても、いじめは形を変えても存在していくもので、いじめ指導や対策はその都度目を光らせていかなければいけない。命を落としてしまったら何にもなりません。親の目線になってしまいますが、学校に行けなくなっても、命だけは守って欲しいと痛切に感じています。死んでしまうことが一番の悲劇です。生徒には何があっても、ほかで救ってくれるところが必ずあるので、どんなに悲しい思い、苦しい思いをしても、死ぬことだけは考えないでという指導をしていかなければいけないと感じています。

■西尾委員 人が二人以上そろえば、それは社会であって、社会には大小のトラブルはつきものです。学校という社会の中で、色々なトラブルがありうることは致し方ないことだ

と思います。ただそれを最小限にとどめるには、子どもの居場所を考えることが大人の務めであり、ここである大人とは先生であり、保護者です。子どもの居場所で一番いいのは、先生と保護者との仲が良いことです。常に学校での状況、家庭での状況を情報共有できることが子どもにとって良い居場所となります。子ども達はどこにいても常に見守られているという安心感がトラブルを最小限にすることにつながると思います。保護者と先生をつなぐ役目であるPTAの存在は大きく、PTA役員を引き受けてくださる保護者は学校に対する理解もあり、子どもの教育に対しても熱心な方が多いと思います。それ以外の保護者をどう巻き込むかが、今後の課題と思いますが、各学校で取り組むことが必要となってきます。以前は、保護者と先生との懇親を深める場があり、お互いが知らない子どもの状況など情報共有ができていました。PTAの担当は、教務か教頭先生だと思います。PTAと情報共有できる機会を作るよう指導できるとよいと思います。

- 市長 他にご意見はございませんか。ないようでしたら、議題2番に移ります。奨学金の制度について事務局説明をお願いします。

2－（2）奨学資金制度について

- 教育総務課長 奨学資金制度について、恵那市の現在の制度概要、東濃5市の制度、他の団体が実施している制度について、資料に基づき説明。
- 市長 何かご意見がありましたら、お願いします。
- 鎌田委員 以前、選考委員をやった際、知り合いが奨学生に選ばれましたが、途中で大学を辞めてしまったことがありました。他にも借りたい子がいる中で、奨学生に選ばれた訳ですので、とても残念に思いました。
私の望みは、教員に特化した、給付型の奨学金制度ができればいいということです。地元の優秀な教員を増やす、先生になっていただくことが、子ども達の学力を上げる近道になると思います。何ができるかと考えたとき、恵那市に戻ってきて教員をやってくれる、そういった優秀な先生に奨学金を有効に使っていただく、そういった制度ができると思います。
- 樋田委員 応募人数が記載されています。平均的に20、30前後ですが、これは多い方ですか。少ない方ですか。費用は人数に48万を掛けた金額ということで、基金は大丈夫ということですか。
- 教育総務課長 はい。毎年約30人の応募があります。基金については、返済は倍の年数になるため、徐々に減っておりますが、このままで令和5年度まで運用できます。
- 樋田委員 周辺部の子は恵那高に入っても、大学に進学しない子が多くいる。理由は、遠い、お金がないという子が多い。優秀な子で大学や専門学校に行けない子が結構いると聞き、何か援助できないかと。この応募人数というのは多いのか少ないのか分からないが、市内在住であれば、どこの学校に通っていても同じ条件ですか。恵那市の奨学金制度がることを生徒に伝えているのは学校の先生ですか。
- 教育総務課長 市内在住であれば、どこの学校に通っていても大丈夫です。各学校に募集

のチラシやポスターを配布して、周知していただいています。また広報にも募集記事を掲載しています。

- 樋田委員 予算の関係もあり、選考会で落とされるかもしれませんが、もっと応募しようという生徒が多くならないものかと思います。所得がオーバーしていない生徒は全て通るのか。面接は行いますか。
- 教育総務課長 面接は行いません。選考会にかけて、定員になるよう所得だけではなく、申請書類に記入していただいた、目標、希望の動機、大学に行ってどういったことを学びたいかを審査します。
- 樋田委員 例えば、卒業後は絶対恵那市で働く、大学を出たら恵那市に戻ってくるなど、条件を付けると、人口も減らないと思いますが。もっと制度を知っていただくといいかもしれません。
- 西尾委員 返済が滞っている方はいませんか。
- 教育総務課長 現在、返済が苦しいという方については、相談し、毎月1万円ずつなどの月賦で返済していただいている。また基本年賦で24万円の返済だが、まとめて返済するのではなく、月賦で2万円にするなどその都度相談して返済計画を立てているため、返済が滞っている方はいません。
- 西尾委員 利子のあるなしに関わらず、借りたものは返さなくてはいけない。それを承知で借りる訳ですが、大学を卒業した若い子達が、奨学金の返済のために就職する。奨学金を借りて大学まで行って、その奨学金を返すために就職しなくてはいけないという気持ちを持たせてしまうのは、本末転倒な気がします。貸与型の奨学金も必要ですが、給付型もできないものかと思いました。予算が絡む話なので、すぐにできないかもしれませんが、色々な条件を組み合わせ、貸与型、給付型の奨学金制度というものがあってもいいのではと思います。
- 村松委員 先日、選考委員をやらせていただき、学校の指導が分かりませんが、申請書の動機のところに、恵那市に戻ってきて、どういう仕事に就きたいとしっかり書かれている方と、一行ぐらいさらっと書いてあるだけの方もおり、これが学校で通ってきたのかと思う書類もありました。先ほど、鎌田委員がおっしゃったように、奨学生に選ばれても結果大学を辞められる方もいるかもしれません。所得制限以外は、なぜ奨学金を借りののか、将来の目的が明確であるかを判断理由とするため、将来への希望、しっかりとした進学意識を持って申し込んで欲しいと思いました。
- 市長 ありがとうございます。その他よろしいですか。では、3番目、えないっぱい給食について説明をお願いします。

2-（3）えないっぱい給食について

- 恵那市学校給食センター所長 えないっぱい給食について、目的、回数、献立、他市の状況、給食センターにおける地産地消の取り組みなど、資料に基づき説明。
- 市長 ご意見がありましたらお願いします。
- 西尾委員 市長さん、試食の感想をお願いします。

- 市長 メーンメニューは地元の鶏肉を使ったチキンカレーでしたが、おいしかったです。委員の皆さんも時間があれば、次回、子ども達と一緒に食べていただけるといいと思います。地元の理解にもつながりますし、子ども達の感想を直接聞くことも出来ますので、ぜひそのような機会をお願いします。
- 西尾委員 地場産業で気になったところが、30 年度のふるさとの日に使用された品目の中に、山岡と岩村の豚肉が入っています。残念ながら豚コレラにより、山岡も岩村も養豚業者が0になりましたが、明智ではまだ事業をやってみえます。行政の手が届かないところで起こってしまったことではあるが、地場産の農産物を守っていくことも大切なことだと思います。給食を作っていただき、子ども達がそれを食べる。そこには色々な困難を乗り越えて作ってみえる農家があるということも、PRしていただきたいと思います。子ども達だけではなく、保護者の方、特に市外から転入してみえた方では、知るすべがないと思います。これを機にPRしていただくことを希望します。
- 恵那市学校給食センター所長 豚肉の件ですが、明智町に養豚業者が1社あり、先日話を聞いてみましたが、現在群馬県に出荷しているそうです。近くに卸している問屋がないということでしたが、給食で使いたいという話をしたら、何とか協力しますという回答はいただいております。まだ具体的に話は進んではいませんが、10月のえないっばい給食で使えればと考えています。
- 教育長 先日のえないっばい給食の日に、教育長訪問で恵那東中学校に行っておりまして。最後の全体会の際、学級でえないっばい給食を話題にした担任はいるか全教員がいる中で聞いた際、2人しかいませんでした。もう少し、教職員に話をして、意識させるようなアピールをしてください。
- 恵那市学校給食センター所長 チラシを配布して校内放送を掛けていただくよう依頼しましたが、チラシは配って終わったというような感じでした。
- 樋田委員 給食は本当においしかったです。資料中、地産地消の項目で地名が書いてあるものと、市内と書いてあるものがあります。恵那市には新しく農業をやりたいと転入してみえた方もいます。そういう方達は来たばかりでどこへ持って行ったら良いか分からず、作った物をなかなか売ることができないそうです。市内というのは、特定の方が決まっているのか、新しく入ってきた方もどうぞ参加してくださいと言っているのか。また、直接給食センターへ持ってくるのか、いかがですか。
- 恵那市学校給食センター所長 給食センターに卸していただくには、登録していただく必要があります。資料に記載の市内は、複数の方が卸していただいているという意味になります。今お話があったように、新しく恵那市に転入してみえて、農業をやりたいという方は実際におり、串原でトマトを作っている方がみえます。新しい方2人ぐらいみえますが、この方達はすでに給食センターに卸してみえます。
- 樋田委員 そうですか。すでに門戸を広げているということですね。登録をすれば卸せるということですが、登録は恵那市役所で行うのか、給食センターでできるのかどちらですか。
- 恵那市学校給食センター所長 給食センターで受け付けています。

- 樋田委員 恵那市にも転入してみえる方が頻繁にあるみたいですが、そういう方達の支援が何かできないかと思い質問しました。登録して自分で搬入するわけですか。
- 恵那市学校給食センター所長 はい。直接搬入していただく必要があります。
- 樋田委員 そうですね。分かりました。
- 鎌田委員 4月の定例会でもお話ししましたが、うちの子どもは本当に給食が大好きで、私も給食が楽しみで教育長訪問に行くぐらい、本当に給食をいただけることがものすごくありがたいです。よく子どもが小さいとき、ひじきを家で煮ると給食のひじきなら食べられる。給食のひじきは本当においしいと言っていました。本当に感謝しています。恵那の子ども達は、おいしい給食をいただいているということをとくさんの方に分かっていたきたいです。こども園の無償化が始まりますが、給食費の滞納ということは本当に起こって欲しくないの、皆さん本当に感謝して、低価格で給食がいただけるということを認識していただきたいです。
- 村松委員 先日、学校給食の会議に出席しました。栄養士の先生方、所長さんを初め、日々栄養を考えてメニューを作ってくださっています。ある栄養教諭の先生は、給食で山岡の寒天を使わなければいけないと、自宅でデザートをいろいろ試作し、ご家族に食べていただくことを繰り返されたとのこと。ご家族から寒天はもういいよとか、これはさすがに寒天には合わないのではと言われ、食べているうちに感覚が分からなくなるぐらい試行錯誤されたそうです。日々子ども達の栄養、地元の特産物を使って、どのようにおいしいデザートを提供するかを考えてくださっていると思い、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。主食がパンのときは、塩分の摂取量が多くなってしまうため、スープを薄めに作るなど考えられており、食べる方はついスープが薄いなど話題にしていますが、色々なことが考えられて作られていると改めて思いました。私も給食を楽しみにしていますので、えないっぱい給食を皆さんでいただけたらと思います。
- 市長 議題全体を通して、皆さんご意見があればお願いします。
- 鎌田委員 市長さんにお聞きますが、東野小学校で子ども達と一緒に給食をいただいて、子ども達の様子はいかがでしたか。
- 市長 とてもおいしそうに食べていました。鶏肉、タマネギ、寒天、エゴマの生産者の皆さんにお越しいただき、交流をしました。食育ではないですが、一年間手間暇掛けて作った物、それを運ぶ人、愛情掛けて調理する人がいて、皆さんの口に入ると言うことをよく知ってほしいということはお伝えしました。作っている方の顔を見ていただく給食はおいしさもきっとひとしおだったと思います。子ども達もそういうことを感じてくれるといいと思っています。
- 樋田委員 知育、徳育、体育の中に、食育を入れるということがありました。朝ご飯を食べずに学校に来る子がいるということで、市長さんが言われたように、食育というのはとても大事なことだと思いました。
- 市長 食を意識した子どもが育つ、大人が育つという考えが、将来のえなの食を回すということにつながることを知ってもらえるといいと思っています。カロリーベースで見ると恵那市の食料自給率は70%です。県内全域では30%、日本全体でも30%だと思

ます。これがフランスでは200%いきます。そういった中でいかに地元のもので食を回していくかはとても大切なことで、食育も当然大事ですし、食は生きる楽しみの1つでもあります。外食することも増えるなど、一つ一つが大きくなれば観光になります。ワインは、おいしいまずいではなく、その土地の水と風土を味わうことだとヨーロッパでは考えられています。恵那市でも風土が地域を味わえるものというものができるといいと思っています。

■教育総務課長 本日予定しておりました議題につきましては意見交換が終わりましたので、以上で第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。

閉会（午後5時05分）